

連合町内会活動報告

盆行事中止について

深町連合町内会

会長 力石 秀喜

七月六日(金)の集中豪雨により、三原市に豪雨被害をもたらした各所で被害を受けました。深町町内も例外ではなく、大小合わせて六十五ヶ所の被害がありました。(各組町内会長・町民・市議員で被害の場所の写真撮影をしマップと報告書を作成し三原市へ報告しました。)

この災害を受けて三原市各所の行事も軒並み中止となりました。(やっさ順延・その他)

深町連合町内会は、七月二十六日(木)臨時役員会を行い八月十五日(水)に予定しておりました盆行事をやむなく中止とさせて頂く事になりました。その時の臨時役員会にて皆様の賛成を頂き盆行事の予算の中から新仏様への御供深町連合町内会の義援金として被災地へお届けさせて頂く事になりました。

重ねて町内の皆様のご理解のほどをよろしくお願いいたします。(その後八月十日に三原市福祉課へ被災地の見舞金として二十万円をお届けしました。)

まだ九月に入っても暑い日が続き大変な日々ですがくれぐれもご自愛下さいませようお祈り申し上げます。

第十四回三原市民大会の中止について

中止について

連合町内会体育部長

法代地 功一

七月の豪雨災害で被災された多くの方々に心からお見舞い申し上げます。

平成三十年十月七日(日)やまみ三原市陸上競技場で予定されておりました第十四回三原市民体育大会は、このたびの災害の早い復旧・復興を考慮し中止となりました。

被災された方々が早く元氣を取り戻される事をお祈りいたします。

深町子どもを守る会

子どもをみんなぞ

守りましよう。



深小の子供は

○午後四時過ぎに下校します。

※日によって、異なることがあります。

○近頃、盗む、みんぞ

見守りましよう。

○あいさつ
声かけをましよう。

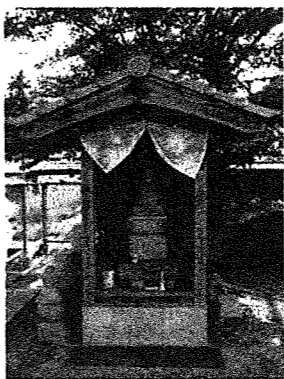
中組町内会たより

二十三日について

中組町内会長

力石 秀喜

七月六日の集中豪雨により三原市に多大な被害をもたらしました。(深町町内も例外にもれず被害がありました。それを受けて盆行事もやむなく中止となり二十三日は、夜店をおこなわず)



法要

「法要後大通寺様の説法は仏像の半眼についてお話をいただきました。」

食事会

「その後食事をしながら深町町内の被害の状況を話合いました。」
今回は短時間で終了いたしました。最後に役員の皆様本当にご苦労様でした。
町民の皆様ありがとうございました。

はなみずきだより

はなみずき
ふれあいサロンへ
参加してみませんか?

深町はなみずきの会

代表 松尾 貞美

※開催日時

年三回(三月・六月・十月)

(多少変更があります)

午前十時四十分～十四時十分

※案内は、お近くの会員がお手紙でご案内いたします。

※開催場所

深町町民会館

※参加者

七十五歳以上の方

※開催内容

健康体操・懐かしい歌・簡単工作

やさしいゲーム等

※昼食はご用意いたしません

※送迎はありません

※会費 五〇〇円

皆さま声をかけあってご参加ください。

会員一同お待ちしております。

深小だより

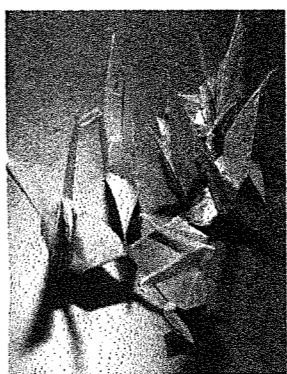
平和記念集会

三原市立深小小学校

校長 松島 恵子

八月六日(月)の登校日に、児童会による呼びかけの黙とうに続き、児童会主催の平和祈念集会を行いました。

今年度は全校児童一人一人の平和メッセージを盛り込んだ折鶴シートを会場に揚げ、平和を祈つての集会となりました。(折鶴シートは校舎二階踊り場に飾っておりましたので、ご来校の折にご覧ください。)



今から七十三年前の八月六日、午前八時十五分、原子爆弾が広島を瞬時に飲み込み、緑あふれる街並みを消し去り、建物が壊され、たくさんの人々がその下敷きになったこと、たくさんの方が大やけどを負ったこと、明日へ向って生きていた人たちの多くの夢や希望を瞬時に奪い、多くの人々の心に深い悲しみや苦しみを残してきたことなどを話し、平和について知り、自分ができることを考えて行動しようとい会を始めました。

まず、被爆の体験の証言者として、三原市にお住いの唐崎 和子さんをお招きしてお話を聴かせていただきました。あの日の強烈な稲光や立ち込める暗雲・悲鳴、真っ赤な空が今も脳裏に焼き付いておられること、何が起こったのかよく分からない中、当時、看護学生だった唐崎さんは、ベッドも医薬品もなく、真っ暗な中で横たわる被爆された人たちの看護に懸命にあたられたこと、そして平和であり続けることの大切さを子どもたちに語ってくださいました。被爆者の高齢化が進む中、こうして生の声を聴かせていただけたことはとてもありがたかったです。

続いて、六年生による平和宣言です。ある本をきっかけに考えた平和への思いを述べました。

(前略) ぼくたち一人一人はだれもみなかけがえのない存在です。それなのにどうして人間はたくさん命を犠牲にする戦争をするのでしょうか。ぼくは思います。この議題を解決しない限りぼくたちの平和で明るい未来はないと。(中略) だからこそぼくは誓います。この地球の未来が明るい笑顔であふれるものであるよう、ヒロシマの願い「世界から核兵器と戦争をなくす」ことを過去から学び、一人一人の命の重みを知り、互いに理解し合い、平和の大切さを伝え合うことで平和をつくり続けていくことを。

謹んでお悔やみ申し上げます

藤本 政彦 様 六十三歳

(下組 五班)

八月一日

深町各種団体九月行事予定

◆連合町内会

▼敬老会

一七日

▼小学校

◆始業式 学区児童会

三日

▼委員会 登校指導

五日

▼参観日

五日

▼放課後子ども教室

六日

▼PTA役員会

七日

▼科学作品展

七、九日

▼長期宿泊体験

一〇～一三日

▼水辺教室(三・四年)

一四日

▼社会見学(一～四年)

二一日

▼クラブ活動

二五日

▼避難訓練(地震)

二六日

▼PTA役員会

二八日

▼如水館中学・高校

二八日

◆始業式

八月二八日

▼スタサポ第二回(SA二生)

三日

▼休み明けテスト(B類二生)

五日

▼学年朝会二年(高)

七日

▼学年朝会二年(高)

一〇日

▼学年朝会三年(高)

一一日

▼水明祭①(非公開)

一五日

▼就職試験解禁日

一六日

▼水明祭②(公開)

一八日

▼九月一六日の振休

二〇日

▼生徒朝会(壮行式)(中)

二六日

▼社会見学(中)

二六日

▼県総体(中)

二九・三〇日

深町の植物

力石 卓夫(三原市宗郷)

《ヌスピトハギ》



秋の七草に数えられる萩の花に似ている。実の形が盗人の忍び足に似ている。実が知らない間にこっそり服や動物に付くのが盗人っぽい。

※七月二十一日撮影

そして六年生全員が平和への誓いを述べ、「折鶴」を歌いました。

その頼もしい姿に、唐崎さんから「深の子はすばらしい。」との言葉をいただきました。

その後、ふり返り作文を書いて、集会を終えました。

その日の夕方、ある保護者より、「今日の平和集会のこと、子どもが話してくれました。六年生が読んで本を自分も読みたいと言っています。」と聞きました。この集会を通して膨らんだ平和への思いを二学期からも大切に育ててまいります。

深小今昔ものがたり(十二)
お迎え遠足(鳴滝山の巻)

尾道市美ノ郷町
石井 哲代

「お迎え遠足は鳴滝じゃと!!」
「尾道の海みえるんじやと!!」
「海が!!」「ふねが!!」六年生から
一年生まで皆な胸を躍らせてお迎
え遠足を待つておりました。
お母さん達も「今年は久山田でな
く、海が見える鳴滝だぞうだ。」と
語り合っておられたようで、お弁
当も、張り切ってお花見弁当級
のようでした。一年生の小さい女
の子には、荷が重いので、私は、
三人分のお弁当を背負うて歩きま
した。



深から一山超えると田圃があり、
土塀のある屋敷跡がありました。
「山賊の屋敷だ!!」と誰かが教え
てくれましたけど、それは作り話
です。詳しいことは知らず仕舞い
です。又山道へ入り てくてく
てくてく「おい海がみえるぞ!!」
「鳴滝じゃ!! 鳴滝じゃ!!」
先頭を歩いていた五・六年生の叫
び声「海じゃ海じゃ」と、頂上へ
向って走る子達。

「もう、行かん。海もみんな」と座
り込んだ一年生の女の子数人。「じ
やあ、ここでええにしよう。行き
たい人は、六年生と一緒に行くん
よ。」元気のよい一年生は、六年生
と一緒に頂上へ「海じゃ!! 海じ
や!!」「舟も、通りようろ オーイ
オーイ」

「オーイ」「オーイ」
声をかぎりに叫んでいる。

おくれ組は「もう行かん」「海も
見ん」と坐りこむ「ええよ、ここ
で一緒にお弁当を食べようね。」一
年生の女の子だけのお弁当タイム
みんな美味しそう。「ほしくない」
泣きそうな女の子。くたぶれて食
欲もないのかな? 「ゆっくり食べ
ようね。お母さんが○○ちゃんに
食べさせようと卵焼きをつくつち
やっただね、美味しそうだね。」
と水をむけても「ほしくない。」
時間が経ってから食べてくれた。
「あ、良かった。美味しかった。
でしよう。」「うん、おいしかった。」
でも、残ったお弁当は私の荷物だ
が軽かった、全員無事に帰った
から。

歩く会にご参加を

歩く会幹事 石井 堂照

三原市宮沖町



月 日 九月十八日(火)
予備日 九月二十日(木)

行程

八時 三〇分 深町上組公民館発(車)
九時 〇〇分 宮沖町探訪
十一時三〇分 探訪終了 昼食
十三時〇〇分 深町上組公民館着(車)

城山サロン・出前講座のお知らせ

城山サロン代表 石井 堂照

○「健康づくりと認知症予防について」

高齢者相談センター
どりのむより

○日 時 九月十一日(火)
十月十二日(水)

○場 所 深町町民会館二階

○お話・相談・血圧測定など

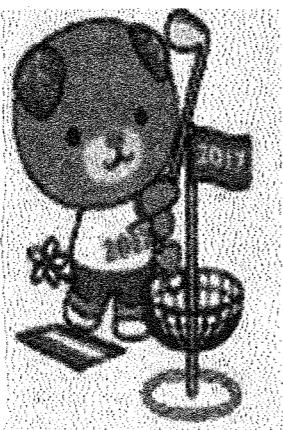
○多くの方の参加をお待ちしてお
ります。

TBG協会だより

第五回三原市

ターゲット・バードゴルフ大会
開催のお知らせ

第五回三原市TBG大会を十月
二十一日(日)に深町・城山コー
スにて行ないます。三原市民なら
びに、深町内の皆様振るって参加
して下さい!!
詳細は事務局まで問い合せて下さい。



第八十回三原市月例

ターゲット・バードゴルフ大会

第八十回三原市TBG月例会大会
を九月二十三日(日)に深町・城
山コースにて行ないます。

TBG事務局 天木 雅之
(TEL 六三二二二九〇)

『栖本郡代 石原太郎左衛門之事』

第八回

それは、天草天正合戦の折り、栖
本八郎親高の軍兵で、三軍將栖本
六之助武経や、天草島原の乱の時
天草四郎方に加担した楠本右京
(または左京)などの名が見える
事からも想定できるので、石原太
郎左衛門も一族の可能性はある。
謎の人物とされる「栖本城主 森
又七左衛門」も、栖本氏の一族で
ある可能性がある。森又七左衛門
は、『天草郡史料一輯』の「天草領
主の弁」の中の「森又七左衛門」
の項に、

「栖本湯船原居城、何の時より
と言事を知らず。天正十六年敵
軍いまだ向はざるに、城を明渡
して蟄居せりと云、其子孫、今、
所々にあり。…(以下略)」
以上五人守護、天正十六年亡。

とある。また、『天草郡年表事録』
の項に、

天正十六戌子
天草五ヶ城
志岐城主 志岐林仙
一町田城主 天草伊豆守
本戸城番 木山弾正
栖本城番 森又七左衛門
伊豆守家臣とも言 未詳
中村城番 赤井弾正

右五ヶ城、今年宇土城主小西撰
津守行長に亡さるる也

とあり、ここでは「城番」とな
っている。また『円性寺文書』の
「寺院建立由緒(文化四年)の中
に、

円性寺末寺
天草郡湯船原村 利明寺
右利明寺之儀、住古森又七左衛
門殿、当初居城之節城内之有、
則祈禱所ニ御座候由。尤百九拾
年以前迄者、檀家有之候由。扣御
座候。其後鈴木三郎九郎殿寺院
御建之節利明寺境内御除地被下
置候。(以下略)

この文書には、城主とはないが
居城している。その外には、天草
キリシタン館所蔵の「鉄扇」に「栖
本城主森又七左衛門 天正三年乙
亥」と陰刻されたものがある。こ
れは、御所浦町の森氏(森又七左
衛門の子孫を名乗られる)が伝承
保管されて来たものである。天正
三年(一五七五)～天正十六年(一
五八八)当時は、栖本氏の直系
栖本鎮通・八郎親高父子が健在の
頃であり、森又七左衛門が城主で

と言う事には疑問が生じる。「城主」
とは、領地に城を持った将の事で
名譽や格式を重んじる武士にとつ
ては、極めて大切な事である。「国
持大名」とは、山国または複数の
国(例えば肥後国や日向国と言っ
た国)を領有し、最も名譽・地位
共に上位であり、「城持大名」は、
それに次ぎ、城の無い大名は、下
位に位置される程で、栖本氏が簡
単に城主を他人に譲る事は考えら
れない。これが、「城番」であれば、
城主が留守の時、城を守る将を置い
た可能性は有る。鉄扇は私物であら
うし、「城主」への野望や気概を示
す為の刻字かもしれない。とすれば、
森又七左衛門は、栖本八郎親高の伯
叔父、もしくは従兄弟クラスの近親
者であるかもしれない。石原太郎左
衛門が、若くして寺沢氏に登用され
た事を考えると、森又七左衛門との
関係も考えられる。人物像について
も生い立ちや経歴を示す資料はお
るか伝承も無い。唯一、『四郎乱物
語』に登場するが、「高来郡の諸民
鳴原へ相詰め、借米願ひ申すの由、
天草にも沙汰しければ、村々の百姓
其の外職人等、郡代へ願うと言え共、
何程と言う限りなければ、三郡代も
もてあつこうて難叶と不取上、訴訟
の者共せんかたなく、富岡へ罷出、
番代へ相達す。(三宅)藤兵衛これ
を聞き『不便なる事哉。唐津へ願っ
て得さすべし。乍去、今一度郡代へ
願うて、否と言わば此の方へ来れ。』
と、番代の三宅藤兵衛は、慈悲深い
人物として描いてあるのに対し、太
郎左衛門・九里・中嶋の三郡代は正
反対な位置付けを行っている。また、
太郎左衛門は、キリシタン勢に恐れ
をなし、御所浦に逃げ、九里六左衛
門も、逃げ急ぐあまり三度も落馬し、
敗軍の先頭に立って富岡へ逃げ込
み、中嶋与左衛門は城を捨て長崎へ
逃げたと記し、三人共、「臆病者」
として描かれる。太郎左衛門の娘を
キリシタンの指導者である渡辺小
左衛門の養女となす事も含め、全て
事実であるかは、疑問の余地は有る
が、当時の天草の人々の間で「噂」
が有ったと言う事ではなからうか。
この事が、乱後直に寺沢氏より「お
暇」を出され、其後他大名への仕
官も叶わなかった事や天草での他
役人(遠見番役人・山方役人)への
登用、大庄屋・庄屋への任命もな
った事の原因であった可能性はあ
ったかもしれない。

※◎上田宜珍の「天草島鏡」

執筆 鶴田 耕治
発行 金子みち子
(次号へ続く)